

FFGのお取引先企業をご紹介します。

### 株式会社 中島田鉄工所

代表取締役社長 **中島田 正徳**氏

取引店 福岡銀行 久留米営業部



### 有限会社 松本農園

代表取締役 **松本 博美**氏

取引店 熊本ファミリー銀行 益城支店



### 株式会社 琴花園

代表取締役社長 **大塚 正則**氏

取引店 親和銀行 大村支店





## 株式会社 中島田鉄工所 中島田 正徳氏

創 業：1911年 5月  
 設 立：1951年10月  
 所 在 地：福岡県八女郡広川町  
 資 本 金：45百万円  
 従 業 員：136名  
 事業内容：プレス機械の製造  
 主な製造品目：ヘッダー、  
 フォーマー  
 （圧造部品製造機械）  
 製造拠点：本社  
 （福岡県八女郡広川町）

「精度の高さとオリジナル技術」という強みを有していたからだと思います。

当社では私が副社長に就任した後の1970年頃からは、「得意分野での圧倒的な強さ」を追求するため、事業領域をヘッダー・フォーマーのみに絞りました。そして、高い精度を求められる工作機械製造によって培われてきた精度の高さや、他社の真似は決してせずオリジナルを追求するという創業時からの社風を活かして、小型で複雑な部品を金型に食い込ませて運ぶ「フィンガーレス・トランスファー」機構など、競合他社を圧倒するような製品を生み出してきました。この高精度とオリジナル技術を最大限活かすため、先進の生産設備を導入しつつ、設計開発は全て社内で行ない、機械に使用する部品加工も70%以上を内製化しています。

### 「全員正社員、同じ土俵」で技術を蓄積

- 当社は全社員の内1名を除いた99%が正社員です。残りの1名も本人の希望によってパート採用となっており、会社としてはあくまでも全員正社員、同じ土俵を基本としています。社員の定着率も高く、その社員の多くが、当社の強みである高精度実現のために不可欠な工程である「きさげ」とは製品の組立時に耐久性を向上させるために摺動面をすり合わせる（平面度を確保しながら表面に傷をつける）作業であり、人の手によってでは行なう事ができないものです。ヘッダーメーカーの中でもきさげ

ざまな圧造部品を製造するプレス機械のことで。一般的にプレス成型を2回まで行なう機械をヘッダー、それ以上の回数のプレスを行なって複雑な形状の部品を製造する機械をフォーマーと呼んでいます。当社はその中でも材料の直径が1.0mm以下の超小型から20.0mmまでの中型ヘッダー、フォーマーに特化しており、特に直径2.5mm以下の製品を作り出すヘッダーにおいては世界シェアの50%、日本シェアの80%を占めています。当社の製品はその高い精度が認められ、これまでばねヘッダーでの製造は不可能とされてきた時計、パソコン、携帯、液晶などのマイクロ製品や自動車、飛行機などの重要保安部品の生産に多く使われています。

### 精度の高さとオリジナル技術へのこだわり

- 当社の属するヘッダー産業は成熟産業であり、1960年頃はヘッダー製造を手がけていた企業は国内だけで20社くらい存在していたのですが、今では3社くらいにまで淘汰されるという厳しい世界です。その中で当社が勝ち残ってくる事ができたのは

### 世界屈指のヘッダーメーカー

- 1911年に創業者である私の祖父が中島田鉄工所を創業したのが当社の始まりです。創業以来一貫して自社開発の機械製造を生業としてきました。当初は番傘の骨組みを割る機械や、肥料の配合機などを製造していました。その後、当社の礎となる工作機械、自動車のクランク軸研削盤、大型バスの洗車機などを手がけ、1960年頃に取引先からの要望を受けて今の主力製品であるヘッダーを開発。その後ヘッダー技術を応用してより複雑な形状の部品を製造するフォーマーも手がけ、これまでヘッダー、フォーマーの累計生産台数は8,500台以上に達しています。高い技術力が評価され、国内だけでなく世界でも屈指の高いシェアを有しています。

### あらゆる産業に欠かせないヘッダー、フォーマー

- ヘッダー、フォーマーとはあらゆる工業製品に組み込まれるネジやさま

にここまで力を入れているのは当社くらいではないかと思えます。また、各社員が身に着け、蓄積してきた技術は単に伝承していくのではなく、常に新しい技術を求めていくことで機械の進歩についていくことが大切です。当社の強みである精度の高い製品作実現のためには、こうした職人技と最新技術の融合が必要だと考えています。

### 新たな市場開拓を目指して

- 現在、新品より先安価に提供できる中古装置を突破口に海外、特に中国を始めとした新興国市場の開拓を目指しています。当社には今まで生産した8,500台分全ての図面が残されているため、どのような古い機械・部品であっても、供給責任を果たすために顧客の要望に応じてオーバーホール・部品供給を行ってきました。50年以上前に手がけていた大型バスの洗車機用の部品もまだに供給しています。この経験を活かして、当社が以前に販売した中古装置を買取り、新品同様に整備して販売するビジネスを展開しています。中古装置の再利用、資源の再利用という環境面への配慮とともに、これまで海外メーカーに比べて高精度ではあ

るが高価格であった当社の製品を、高精度という特徴はそのまま安く提供することで、新たな市場を開拓できるのではないかと考えています。

また、新品では中古品との棲み分けを図るため、常にその時点での最高のものを目指しています。海外の展示会などに積極的に出展し、海外の先進機械の研究も行なっています。最近では量産化で幅広く利用されるヘッダーだからこそ必要だという考えから、省エネ、省労力化による環境問題への対応という付加価値をつけることに注力しています。

### これからも挑戦

- 当社はこれまで顧客からの注文に応じて、既存技術では対応できないものでは新たに機械、金型を開発して、あらゆるものを作ってきました。そのためカタログに記載しているモデルだけでも競合他社の数倍となる70機種以上となっています。世界的な景気低迷や円高の影響を受けて今後しばらくは厳しい時代になると思われませんが、その中でも「精度の高さ」や「オリジナル技術」にこだわり、顧客満足の実現のための挑戦を続けてまいります。



福岡銀行  
取締役頭取 谷 正明

当社の機械は精度の高さなどが世界でも高く評価されており、その機械によって作られた部品は世界中で幅広く使用されています。これも、当社が「オリジナル技術」や「精度の高さ」へ徹底的にこだわりながら、顧客満足を追求し続けてきた賜物ではないでしょうか。現在も新たな挑戦を続けている当社が、今後世界でのプレゼンスを更に高めていくことを期待いたします。



当社の製品「MST606」



当社の製品で生産された圧造部品



視察風景



## 有限会社 松本農園 松本 博美氏

創 業：1955年 4月  
設 立：1991年 9月  
所 在 地：熊本県上益城郡益城町  
資 本 金：8 百万円  
従 業 員：35名(パートを含む)  
事業内容：農産物の生産および出荷加工  
主な生産品目：各種野菜  
(人参、タマネギ、大根、ごぼう、  
里芋、ネギ、ソラマメ、オクラ)  
切干大根、米  
農作業場：熊本県上益城郡益城町(年間延べ作付面積約50ヘクタール)

### 世界で通用する農産物生産管理を行なう農業生産法人

- 当社は今から18年前に農業生産法人として設立いたしました。主な生産品は人参、大根などの根菜類などです。当社では生産だけでなく出荷加工まで手がけ、大手量販店などに販売しています。耕作面積も徐々に広げ、今では圃場数が140箇所以上、作付面積は年間延べ約50ヘクタールに広がっています。「できるだけお求めになりやすい価格でハイクオリティな農産物をより多くの人に届けたい」という思いで、独自の生産管理システムを構築し、世界で通用する農作物生産管理に取り組んでいます。

### 安全・安心をイメージで語らず、高度な生産管理システムを構築

- 現在、食の安全・安心に対する関心が高まっています。当社では安全・安心について「国産だから大丈夫」というような「イメージ」では語らず、また、自社生産物に対して「安全」という表現は使いません。安易に「安全」というイメージに頼らず、独自の生産管理システム構築や様々な外

部認証の取得を行い、客観性を有した信用に足る信頼性の確保に努めています。

まず、当社が構築している生産管理システムでは、従業員が4W1H(いつ、だれが、どの圃場で、どの作物に対し、どのように作業したのか)のデータを作業日誌的に入力することにより生産情報の管理を行なっています。安全性確保のためには、「未然に防ぐ」だけでなく、「万一事故が発生したときに迅速に的確な対応をとる」ことも重要だと考えており、その対応のために、生産管理システムを活用し、情報深度を高めたトレーサビリティの強化に努めています。

また、外部認証の取得に関しては、2006年に農産物の生産内容(農薬・肥料の使用状況)を公開する「生産情報公表日本農林規格(JAS)」を国内で初めて取得し、07年にはヨーロッパで主流となっている「安全管理手法「グローバルGAP」を取得、08年には農産物の安全管理において検証可能な手法を要求している品質マネジメントシステムの国際規格「SQF(Safe Quality Food)1000」の認証を取得いたしました。この3

つの認証を取得することで、国際的にも通用する外部の客観的な評価を得ることができました。ここまでの取り組みを行なっているのは国内では当社だけです。

更に、当社では契約農家に委託せず、生産から出荷までほとんど全てを内製化しています。一般的な農業法人の事業形態とは異なり、農業生産法人としては珍しい形ですが、生産管理徹底のためには必要だと考えています。当社の生産管理システムは国内外で高い評価を得ており、当社の生産物は国内だけでなく香港、加工品においては欧州など海外へも輸出されています。

### 生産管理システムを経営品質向上にも活用

- こうした生産管理強化の取り組みは、単に安全性の追求だけが目的ではありません。集めた情報を自社の経営品質向上に活用することも大きな目的です。生産管理の取り組みを継続的なものとするためには、その取り組みが自社にとってメリットのあるものにする必要があると考えています。当社の生産管理システムでは、圃場毎に投入した人的コスト、かかった作業時間、農薬量などを把握することが可能となっており、その結果を基に作業の効率化、いわゆるカイゼンに努めるなど、生産管理システムを活用してこれまでの日本の農業生産現場にはない経営管理の手法を取り入れています。

### ワクワクするようなストーリーを示し、担い手確保

- 今、日本の農業で最も深刻な問題は、将来にわたる農業の担い手不足です。担い手確保のためには、若者

にとって農業が魅力的な産業だと思えることが大切だと考えています。当社には今年大卒も含め20代の新人4名が入社しました。3年ほど前には上場企業の内定を断って入社した者もいます。その理由が「世界への挑戦」という目標を掲げて様々な取り組みを進めている当社を知って、「農業の可能性を感じた」からとのことでした。このように、従業員が「ワクワクするようなストーリー」を示すことは従業員の確保だけでなく、モチベーション向上、定着率向上にも繋がっています。

従業員の育成にも注力しています。生産管理システムがきちんと機能するためには、そのシステムを利用する従業員の教育が必要不可欠だからです。従来の農業には「仕事は見えて覚える」という親方気質のようなものが存在しており、一人前の担い手となるためには10年はかかると言われていましたが、当社では作業の標準化を進め、より早期に一人前になれるような育成に努めています。また、技術面に加えて、従業員一人一人が「指示待ち」ではなく、責任感を持って「自主的な行動」ができる人材になれるような育成にも努めています。

#### 世界への挑戦のため新たな挑戦

- 当社では現在、世界トップの生産管理システム、マネジメントシステム実現を目指して、新たな挑戦を行っています。一つ目はトレーサビリティ技術の更なる向上です。現在、万一当社が提供した商品から残留農薬が見つかった場合、その原因を特定し、対象商品の回収を販売先に求める対応を5分でこなせるシステムを構築するための開発に取り組んで

います。もう一つが農産物の生産過程で生じるCO2排出量のモニタリングシステムの開発です。これは単に、環境問題への配慮だけでなく、CO2排出量を正確に把握するためにはこれまで以上に厳格な生産管理を行わないといけないため、それによって、圃場毎に行なわれている作業や使用しているエネルギーをより正確に把握することができ、作業の効率化、エネルギー使用の効率化などのカイゼンにも繋がると考えています。その他、入在庫の管理なども行なえる次世代型バーコードを利用した開発にも取り組んでおり、生産管理システムの海外展開も視野に入れていきます。

日本の農業は非効率の代名詞のように言われていますが、品質と価格のバランスを考えるとアメリカ、フランスなど海外の生産物に比べて高価とは言えません。また、日本の強みであるきめ細やかさを生かせば、海外でも勝算があると考えています。当社では、「農業の産業化と日本産農産物のブランド化」を最終的な目標に、これまでの国内農業にありがちな「受け身」の姿勢ではなく、自らに何ができるかを問いながら新たな挑戦に取り組んでまいります。



商品写真



熊本ファミリー銀行  
取締役頭取 鈴木 元

食の安全・安心に対するニーズの高まりや、食料自給率向上の観点等から農業に対して注目が集まっていますが、その振興に向けては様々な課題が存在しています。当社の「高度な生産管理システム構築」や「一般企業の考えを取り入れたマネジメントの実施」という取り組みは、「儲かる農業 = 農業振興」実現のためのビジネスモデルの一つを示していると思います。常に先を見つめて挑戦を続ける当社が今後日本、そして世界の農業を牽引していく存在となることを期待いたします。



視察風景



## 株式会社 琴花園 大塚 正則氏

創 業：1962年 5月  
設 立：1967年 8月  
所 在 地：長崎県大村市  
資 本 金：20百万円  
従 業 員：86名  
事業内容：造園業、土木業、  
植木リース業、園芸用品販売  
業、不動産業  
事業拠点：本社（長崎県大村  
市）、福岡支店（福岡県大野城  
市）、県北営業所（長崎県佐世  
保市）

にサービスを提供している一方、部門ごとに独立して月次決算を実施しており、業績がその都度明確になることもあって、各事業部は自然と切磋琢磨し能力を高めあっています。

### ハウステンボスの花壇では綿密な温度管理で開花時期を調整

- 県北営業所では、自然との共存を大きなテーマとしているハウステンボスの植栽事業に永年携わっており、チューリップ祭等、年間を通して花壇管理を当社が担当しています。チューリップ祭の開催期間は1ヶ月余りであるのに対しチューリップの開花期間は約2週間であり、人々の目を楽しませるために様々な工夫を施して取り組んでいます。例えば、常に見ごろの状態を維持するために、冷蔵庫に保存し開花時期を調整した球根をビニールハウスで発芽させ、タイミングを計りながら苗の植え替えを行っています。手間暇をかけた作業ですが、来訪された皆様が楽しんでいる姿を見ることができるとは大きな喜びです。

### 自社内で生産した花と緑をお届け

- わが社が皆様にお届けする花と緑の大部分は自社内で栽培しています。ハウス1ha、圃場3haの広々とした農園で、経験豊富な専門スタッフが最新の技術を駆使して世界各国の樹木や観葉植物、草花などの新たな生命を生み出しています。消費するだけでなく、その一方で生産活動を行うことによって自然環境と人間社会の共生のあり方を、自らも探ってゆきたいと考えています。

会に貢献すること」「社員の生活を豊かにすること」この3つの実現のために自ら努力するとともに、様々な関係者と協調協同の精神をもって経営に取り組みたいですと考えています。

### 花に関するあらゆるサービスを提供

- わが社の取り扱う花と植物の数は長崎県内最大級であり、フラワーショップは長崎県内に3店舗運営しています。中でも生花や観葉植物、ガーデングッズなどあらゆる商品を取り揃えているアトリウム琴花園（店舗面積3,600㎡）は、県下最大の総合園芸ショップです。

また、わが社は社内ご 造園・土木事業部」「リース事業部」「生産部」「販売・商品開発部」「不動産部」の5つの事業部を設けており、花の小売販売とともに造園やリースなど総合的なサービスを1社だけで提供することができます。花や植物に関する様々なニーズに対応できるため、お客様から「琴花園に仕事を頼めば安心」と満足いただいています。

5つの事業部は連携してお客様

### 若い頃から花の生産販売を志す

- 私の実家が農業を営んでいたこともあり、私は若い頃から特に花が好きで、将来は花の生産販売で生計を立てたいと考えていました。園芸高校を卒業して一旦は地元企業に勤めましたが、園芸の勉強をしたくて国内有数の植木生産地である愛知県稲沢市の園芸場に勤務しました。2年間の勤めを経て地元である大村に戻り、早速、花の生産販売やリース業を始め、お客様からの依頼が増え始めていた造園の仕事へも少しずつ事業範囲を広げていき、1967年に会社を設立しました。

### 花や緑を通じて地域社会への貢献と従業員の生活向上を果たしたい

- 事業活動を通じて願うのは、花や緑にあふれるゆとりある空間を皆様に届け、地域の人々の健康と幸福のお手伝いをしながら地域社会に貢献し、その結果として従業員の生活が豊かになることです。言い換えますと「顧客に喜ばれること」「地域社

## 自然と都市、緑と人との調和を目指す屋上緑化事業

- 現在、わが社では環境にも人にもやさしい空間の創造を目指し、公共施設の屋上や壁面緑化、大型ショッピングモールの屋上庭園の施工などに積極的に取り組んでいます。単に緑化施設を施工するだけでなく、「造園・土木事業部」の技術とノウハウを活用し建築物における重量や保水に関する計算も自社で行っています。最近の施工例では、昨年、長崎市にオープンしたショッピングモール「みらい長崎ココウォーク」の屋上緑化庭園工事などを手がけました。

## ヒトの五感に伝わる空間造り

- 屋上緑化事業を含めこれから手がけていきたいのは、匂い、音、ぬくもりなどヒトの五感に伝わるガーデニングや、鳥や小動物、昆虫などが自然と寄ってきて緑と一体となれるような庭造りです。お客様の住まいに対

するこだわりを合わせた庭造りを、積極的にご提案していきます。そのような事業を積み重ねながら、私が思い描いてきた「社会や人、環境にやさしさを与えられる会社」を追求して参りたいと思います。

## 自然との持続的な共存が求められる時代に

- 1962年の創業から私どもは一貫して花や緑にあふれる、ゆとりある空間を皆様の暮らしにお届けして参りました。社会における環境への意識は、いよいよ高まり、自然との持続的な共存が次代の大きな課題となっており、私たちの事業の役割もますます大きくなってきていると感じています。だからこそ、これまで培ってきた、人にやさしく明日に心地いい空間を生み出すための想像力をさらにたくましく、自分たちの役割をしっかりと果たしてゆきたいと考えています。



親和銀行  
取締役頭取 鬼木 和夫

花や緑の販売とともに造園・土木、屋上庭園造りまで、幅広い業務をお客様の立場に立って取り組まれているのも、若い頃から花作りが好きだったと言う大塚社長の人柄によるものだと思います。ハウステンボスの見事なチューリップ畑の裏で、大変なご苦労をされているお話が印象的でした。

私たちの生活を豊かにしてくれる当社の事業が、今後益々発展されることを期待しています。



チューリップ祭開催期間中のハウステンボス

©ハウステンボス / J 11787



自社ハウスでのチューリップ生産



フラワーショップ アトリウム琴花園



視察風景



みらい長崎ココウォークの屋上庭園